

令和5年第14回（定例）高砂市教育委員会 会議録

日時

令和5年9月28日午後5時00分

場所

高砂市役所南庁舎2階会議室2

出席者

教育長、吉田委員、山名委員、神尾委員、吉屋委員

出席事務局職員

木田教育部長、福本教育推進室長、矢野学校教育室長、石原教育推進室教育総務課長、
四方教育推進室生涯学習課長、星野中央公民館兼伊保公民館長、荒木教育センター所長、
高橋学校給食課長、福永学校教育室学校教育課長、亀野青少年センター所長、神吉幼児保育課
副課長

本日の会議に付した事件

協議事項

- 1 高砂市立公民館管理運営規則の一部を改正する規則を定めることについて
- 2 高砂市教育センター条例施行規則の一部を改正する規則を定めることについて
- 3 高砂市社会教育委員の委嘱について

報告事項

- 1 庁内委員会委員の任命について
- 2 令和5年度全国学力・学習状況調査結果報告について
- 3 高砂市教育委員会事業後援・共催について
- 4 荒井幼稚園の保護者説明会について

その他

- 1 10月行事予定について

議 事 議案 1 高砂市立公民館管理運営規則の一部を改正する規則を定めることについて

○事務局 公共施設予約システムについて、オンライン決済及びインボイス制度に対応した新システムの更新に伴い、標準的な用紙を使用することから、現在の高砂市公民館管理運営規則の様式第1号から第4号までについて改めるもので、令和5年10月1日から施行します。

○教育長 事務局より説明が終わりました。番号はどこに記入しますか。

○事務局 左上です。左上に申請番号を付すようにということで指示があったということです。

○教育長 はい、分かりました。

○委員 使用年月日はこんな端っこにこんな小さくていいんですかね。

○事務局 システムの標準様式を使用しており、特に共通様式ということで認識しておりますので、よろしくお願ひしたいと思います。

○教育長 これは、ダウンロードしての書き込みもありますか。電子媒体だけですか。

○事務局 公民館につきましては、窓口申請で、手書き申請をしていただく予定です。

○教育長 分かりました。そうしたら、何か書けないなという人もいるかもしれないけど、その辺はうまく対応していただけますか。

○事務局 窓口の申請のときにそういうところも適切に対応していきたいと思っておりますので、よろしくお願ひいたします。

○教育長 ほかにございませんか。

○委員 公民館使用の使用状況はネットで分かるんですか。

○事務局 現状のシステムで使用状況等は確認されます。今後、新システムになりましても、来年3月31日までは現状と同じように、予約の確認状況は確認できます。

○教育長 可決することとしてよろしいか。

(「はい」と呼ぶ者あり)

○教育長 原案どおり可決することに決定しました。

議 事 議案 2 高砂市教育センター条例施行規則の一部を改正する規則を定めることについて

○事務局 中央公民館長の説明と同様に、他の予約システム、利用施設と同じく、申請番号の追加と明朝体に修正しました。

○教育長 明朝体というのはどこですか。

○事務局 様式です。8月24日の教育委員会の協議ではゴシック体の様式になっていたんですけども、昨日、例規に載せるときは明朝体という指摘をいただきましたので、変更させていただいております。

○教育長 申請書はゴシックだけでも、例規の方に上げるときは明朝体になるということですね。

○事務局 はい。その御指摘をいただきましたので、変更しております。

○教育長 分かりました。よろしいですかね。

それでは、議案2について可決することとしてよろしいか。

(「はい」と呼ぶ者あり)

○教育長 議案2について原案どおり可決することに決定しました。

議 事 議案 3 高砂市社会教育委員の委嘱について

○事務局 9月1日付で、高砂市議会推薦の島津明香委員から辞職の届出があり、推薦を依頼したところ、高砂市議会より、令和5年9月20日付で入江啓太議員の推薦がありました。住所、年齢、在任期間は残任期間と同じ令和5年9月13日から令和6年3月31日です。

○教育長 御意見、御質問ございませんか。議案3、高砂市社会教育委員の委嘱について、可決することとしてよろしいか。

(「はい」と呼ぶ者あり)

○教育長 議案3について可決することとします。

議 事 報告事項 1 庁内委員会委員の任命について

○事務局 未来技術社会実装事業推進本部専門部会及び未来技術社会実装事業推進本部専門部会ワーキンググループの委員の任命について説明

○教育長 事務局より説明が終わりました、御意見、御質問はございますか。

○委員 未来技術社会実装事業というのはどういうものですか。それを推進する推進本部専門部会というのはどういうことをするのですか。

(休憩 午後5時15分)

(再開 午後5時17分)

○事務局 この未来技術社会実装事業というものは、例えばSPOBYというアプリを使いまして、歩いたり、自転車で行くと、その距離に応じて、どれだけ脱炭素ができていくかというようなことを測ったり、そういったいろいろなアプリを実験的に使うような事業で、それについて、意見とか、その内容の課題とかを拾い上げていく委員会となっております。

○教育長 報告事項1の任命については、よろしいですか。

(「はい」と呼ぶ者あり)

○教育長 報告事項 1 は了承します。

議 事 報告事項 3 高砂市教育委員会事業後援・共催について

○事務局 高砂市教育委員会事業後援・共催については、それぞれ記載されている日に申請を受け承認決定をしております。

○事務局 高砂縁日についてですが、今年 2 月 7 日に申請がありましたが、その際、教育委員会としては、第 2 条 1 項の当該事業の目的及び内容が教育、芸術文化及びスポーツの振興、市民福祉の増進などに寄与し、かつ、公益性があると認められるものに該当しないため、不承認とさせてもらっています。

このたび、目的を高砂市の歴史や文化の魅力などを学びというふうに書き換えられて再度、教育委員会の後援申請をいただきたいということです。

前回と変わった点は、子供向け体験ブース、キッズスペースのあそべ〜や、子供が自らつくったもので子供が店主になる企画、高砂市吹奏楽団、中学校の吹奏楽部、和太鼓であったり、県立松陽高等学校のボランティアを受け入れているとか、そういう要素は増えておりますが、お店の数が 50 店舗以上だったり、キッチンカーなども呼んで、まちおこしの要素が強いかなという印象で、その点について御審議お願いできないかなと思っております。

○委員 その前に、最初の共催事業の分ですけど、夢見る小学校高砂実行委員会は前からあるんですかね。

(休憩 午後 5 時 25 分)

(再開 午後 5 時 56 分)

○教育長 先ほど、教育委員の皆様からは、「夢見る小学校」上映会は、共催ではなくて、後援でよいのではないかという御意見をいただきました。今後共催にする場合は、共に開催するというのを頭に置きながら、共催の重さを捉えて、専決させていただきたいと思いました。

あと、御意見はございませんか。

TAKASAGO MUSEUM、これはどんなことをするのですか。

○事務局 新しいイベントで、事業の目的は、アートを通じて、人、町、地域の活性化を図る。事業の内容としては、主に播磨エリアの芸術家の作品を展示、子供たちへは情操教育の一環として行い、場所がウェディングパレス鹿島殿で、参加費なしで、プラスチックゴミから生まれたアート作品が地元の子供たちとのコラボで誕生しますということ、最初のオープニングは書道家の方の作品と一緒に展示しますということを書かれております。小・中学校の子供たちには既に作品を依頼中で、それを共同でつくるということで、SDGs も絡めて、ごみの減量化を伝えていきたいということを聞いています。

○教育長 よろしいですか。それでは、報告事項3を了承でよろしいですか。

（「はい」と呼ぶ者あり）

○教育長 報告事項3は了承します。

議 事 報告事項 4 荒井幼稚園の保護者説明会について

○事務局 8月3日と9月1日に、荒井幼稚園で令和6年度以降の園児募集及び認定こども園の生活についての保護者説明会を実施しました。参加保護者数は、3歳児と4歳児の保護者11名中11名で、今後の募集については、令和6年度は全ての年齢において従来どおり行いますが、令和7年度以降は、令和6年度の入所状況を見て検討していきます。認定こども園の生活については、生活の流れを中心に説明しました。

説明会終了後の令和6年度の進級を希望する就学前教育保育施設についてのアンケート調査の結果としては、令和6年度に進級を荒井幼稚園で考えている方が10名、荒井幼稚園にするのか、荒井こども園にするのかということを検討している方が1名で、荒井幼稚園を希望している10名のうち8名が学級の園児数が少人数の場合でも荒井幼稚園での進級を考えていて、2名は一定の規模の集団の中での教育、保育を望んでいるとの回答で、荒井幼稚園での進級を希望する理由としては、自宅から近いという方が2名、教育、保育の内容という方が4名、その他が4名でした。

○事務局 現在、荒井幼稚園の給食は、荒井小学校の給食調理業務委託及び荒井幼稚園の給食調理運搬業務委託として5年間の契約を行っており、5歳児に週2回、火曜日と金曜日に、小学校の給食室で調理した同じ献立のものを食缶で幼稚園に運んで提供しています。

この契約期間が令和6年度末までのため、来年度、次の5年間の契約のためのプロポーザルを行う予定ですが、幼稚園の実情や参加業者の状況を考えると、現状と同じように給食調理運搬業務委託を継続していくことは難しいと考えており、令和6年度までの契約期間で終了することを検討しております。10月からの来年度の幼稚園の募集で、この旨を保護者へお知らせします。

○委員 保護者の参加人数は、在園人数何人中11人ですか。

○事務局 来年度進級する園児は12名おりますが、双子の御家庭が1家庭いらっしゃいますので、11名中11人となります。

○教育長 今現在3歳のお子さんと4歳のお子さんの保護者の方を対象にしているということですね。

○事務局 そうです。

○委員 荒井幼稚園で進級しようと考えている理由のその他の4名は、どんな意見でしょう。

○事務局 今の幼稚園のままの環境で卒園させたいと言われる方が2名、入園したときからの同じ友達と一緒に卒園させたい、転園するということに少し負担を感じるという御意見をいただきました。

○委員 給食がなくなったら、お弁当を持っていくということになるのでしょうか。

○事務局 はい、そのようになります。

○事務局 ただ、来年度から荒井保育園がこども園になり、1号認定は教育課程も幼稚園と一緒にすし、給食に関しては、こども園は毎日給食をやっていますので、本当に給食を求められる方であれば、こども園という選択肢が近くにある現状です。

(休憩 午後6時06分)

(再開 午後6時18分)

○教育長 保護者の意向も大事にしながらも、保護者説明会の中で、給食のこと、人数のことをできるだけ説明して、こども園へ通園するようにお願いしたいというふうに話が出ました。それでよろしいですか。

(「はい」と呼ぶ者あり)

○教育長 報告事項4は了承します。

議 事 報告事項 2 令和5年度全国学力・学習状況調査結果報告について

○事務局 調査の目的は、児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図ること、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善に役立てることで令和5年4月18日に実施しました。

小学校国語の正答率は、全国67.2%、高砂市67%、算数は62.5%、高砂市64%、高砂市の小学生の平均正答率は、全国と比較して、国語0.2ポイント下回り、算数は1.5ポイント上回る結果であり、中学校は正答率が全国69.8%、高砂市67%、数学が全国51.0%、高砂市47%、英語は45.6%、高砂市40%、英語の話すことは、全国12.4%、高砂市6%で高砂市の中学生の平均正答率は全国と比較して、国語2.8ポイント、数学4ポイント、英語5.6ポイント、話すこと6.4ポイント下回っています。

全国との経年比較では、小学校の国語は下回り、算数は同程度、中学校の国語は同程度又は下回り、数学は大きく下回り、中学校の英語は差が広がって、話すことは初めての実施のため経年比較ができません。

小学校の国語では、上位層が少なく、中位層が多く、課題解決の方策は、読んだ文章に対して、根拠をもって自分の意見を述べる力を育てたり、自ら情報を集め、活用する力を育てたり、情報を読み解く力を高め、語彙力を高め、表現力に磨きをかけ、教科横断的に情報を収集し、活用する学習活動を行い、自分の考えをアウトプットする場面をきちんと授業の中で準備していくことで方策をまとめております。

小学校の算数でも、上位層が少なく、中位層が多く中位層の中でも中位の割合が高い傾向が見られるので、このあたりの層をさらに上位の方へ押し上げることができればと考えられ、課題解決の方策は、立体や図形にふれるような体験機会を多くしたり、抽象的なものから具体的、逆に、具体的なものから抽象的のように活用できるようにし、答えを求めるだけではなく、計算方法や立式に至った考えを書き発表する場面や時間を十分に確保し、子どもたちが主体となって学習を進めていける授業づくりを行うことで方策をまとめております。

中学校の国語では、上位層が少なく、中位層が多くなっており、全国が69.8%に対して、高砂市は国語が67%、2.8%低いんですけれども、数学や英語に比べますと、全国には近いのは学習で、子供たちが、勉強好きですかというところで、国語を好きと答えている生徒の割合が高いところに影響しているのではないかと考察しました。

10ページに戻って、中学校国語の課題の解決への方策として、小学校と同じように、読んだ文章に対して、今度は根拠を持って自分の意見を述べる力を育てていくこと。また、自ら情報を集め、活用する力を育て、情報を読み解く力を高める。さらに、自分で意見を述べるためには、語彙力を高め、表現力に磨きをかけていくこと。小学校では、授業形態が、ペア、グループ、そして、子供たちが発表するというような場面が増えてきていまして、その子供たちが進学した中学校でも、小学校と同じような学習形態、協働的な学びを進めていくということを強く発信していきたいと考えております。また、小学校で毎日あった国語の授業が、中学校になりますと週3回に減ってしまいますので、国語の教科以外でも、同じように情報を収集して分析する、2つ、3つの情報を見比べて分析していくというような活動を、教科横断的に取り組むことが必要だと考えております。

11ページ、12ページ、中学校の数学も、上位層の生徒が少なく、今まで中位層の生徒が多かったのですが、下位層の生徒が多いことが分かります。

12ページ、5番に課題をたくさん記述しております。その課題を受けて、方策としましては、国語と同様に、やはりペアや班学習、さらには、数学におきましては、少人数学習等を取り入れて、より子供たちが自分で疑問、課題を見つけ、それを主体的に学び、解決していく学習を増やすこと。そして、自分の考えを説明する、人の考えを聞いたりして、そこから自分の考えをさらに深めて、説明力、表現力を磨いていく。1人1台タブレット、また、電子黒板等のICTを活用し、情報を収集、資料などを作成し、クラス全体で解説・考え方を発表する授業機会を増やすというような形になります。どうしても、中学校最後の入試に向けてというところがあり、一問一答式、子供が問題を解いていくというような受け身の授業スタイルがまだまだ抜けきっていないと思います。そこで、1つの単元、例えば5時間でしたら、その5時間の中で、初め、中、終わりを見て、その1時間の中でも、また、初め、中、終わりという授業構成をして、その中で、教師が説

明する時間、また、生徒がしっかりと考えて、生徒が発表する時間ということを考えているんですけれども、その割合が、今はやはり教師が説明する時間の方に比重が高くなっておりますので、そうではなくて生徒が自ら調べ、自ら考え、発表していく時間の方の割合が増えるような授業構成をこちらからも指導していきたいと考えております。

13ページ14ページ、中学校の英語では、これまでの形と違って、上位、中位層の生徒が圧倒的に低く、下位層の生徒が大きいという、ほかの教科と比べ逆の山の形になっております。それは全国的にも同じ形ですけれども、特に高砂市では、下位層の真ん中あたりの正答数3問というところの山が突出していることが分かります。

14ページに、課題、方策を示しております。6番の方策ですけれども、やはり言葉、慣用句表現を使った文の練習ということを実際に増やす。その増やす方法として、実際に自分で話してみる、書いてみる。そして、定期テストですね。中間テストや期末テストにもそのような問題を、教師が作成するときに意識して取り上げるなどして定着を図ること。また、リスニング・読解で、文章の内容を要約させ、英語で話す練習を取り入れて、より深く理解できる力をつける。文法・本文内容・表現活動を一体化して、協働学習を取り入れて、理解力の向上を図る。失敗を恐れずに、積極的にたくさんどんどん書かせていく。そして、その失敗の中で経験を積ませていくことが必要であるという方策が出ております。

15ページ、16ページは今回初めて実施されました英語の話すことになります。正答率がゼロという割合が、全国も、高砂市も最も高くなっております。

16ページに課題、方策を書いてますが、課題としては自分の意見を表現する力が乏しかった。また、積極的に話すことに苦手意識があった。話すことに恥ずかしさを感じているのかもしれないということを受けて、方策として、A L Tのネイティブの先生をより活用して、A L Tと話す機会を増やす。授業で話す場を設定する。授業のスタートのスマールトークで毎時間実施する。C a n D oリストやI C Tを積極的に活用して、話すということに取り組んでいく。英語、ここで分かったことが、本当に英語のスタイルとして、やはりまだまだ授業の中で話すという場面が圧倒的に少ないという課題が出ておりますので、そこに改善に努めてまいります。

17ページからは学習状況調査ということで、児童生徒への質問による結果のところになります。

17ページは、健やかな体づくりという項目を挙げております。「朝食を毎日食べていますか」「毎日同じぐらいの時刻に寝ていますか」「毎日同じぐらいの時刻に起きていますか」というような設問になっております。毎日同じぐらいの時刻に寝ているや、同じぐらいの時刻に起きているでは、小学校では、肯定的な回答が、全国より上回っております。そのほかは、全国より下回っており、引き続き、

家庭との連携を図り、家庭の教育力が不可欠であるということで分析を行っております。

18ページは、子供たちの豊かな心が育っていつているかという指標となる設問となっております。「自分には、よいところがあると思いますか」「将来の夢や目標を持っていますか」「人が困っているときは、進んで助けていますか」というような設問となっております。小学校では、全てにおいて、肯定的な回答が、全国に比べて上回っております。中学校では、「将来の夢や目標を持っていますか」という設問での肯定的な回答が上回っております。このような結果ですけれども、否定的な意見をしたという子供がやはりいますので、その否定的な意見をしている子供たちをしっかりと見ていくことが大事ではないかということで分析しております。

19ページは、確かな学力に関わる設問としまして、自分の思っていることや感じていることをきちんと言葉で表すことができているかというところになります。小学校において、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文書、話の組立てなどを考えながら工夫して発表する機会が増えていることが分かります。この数字が、先ほどから述べていますように、小学校に比べ中学校の方が低いというところで、中学校での授業の中においても、先生がそういう場をしっかりと今後も設けていきながら、子供たちが意見を言うところを増やしていく必要があると考えられます。そのような授業改善を図っていかねばならないと考えております。

その下「家で自分で計画を立てて勉強していますか」というところで、小学生にはやはりなかなか難しいとはいえ、小学生、中学生ともに全国を下回った数字が出ています。このあたりも、引き続き、きめ細やかに指導していくことが必要だと考えます。

20ページは子どもの思いということの設問です。「学校に行くのは楽しいですか」というところで、特に中学校では、87%で、全国と比較しましても、5.2%上回っております。勉強が好きですかというところでは、高砂市の小学校の算数と、先ほど申しました中学校の国語が全国を上回っております。

次に、学習の中でコンピューターなどのICT機器を使うのは勉強に役立つと思いますかというところでは、全国に比べ、僅かに小学校では上回り、中学校では下回っております。

最後に、「あなたの学校では、学級生活をよりよくするために、学級会で話し合い、お互いの意見のよさを生かして解決を決めていますか」ということに対しましても、全国に比べ、高砂市は、小学校、中学校とも、全国を下回っていることが分かります。

21ページ、22ページ、23ページは、小学校から中学校の生活の分析シートで、それぞれ、全国を上回っている項目、下回った項目、全体を通した考察、改善に

向けた方策について記述、記載させていただいております。

以上、よろしくお願いいたします。

○教育長 事務局より説明が終わりました。質問はございませんか。

○委員 9ページ、11ページの一番下のところなんですけど、9ページと11ページだけが、中学生なのに、児童になっているんです。

○事務局 申し訳ございません。「児童」を「生徒」に直します。

○委員 20ページで、子どもの思いで、学校に行くのは楽しいって、全国平均よりも高く、高砂の子供たちが言っているというのは本当にうれしいことだなと思います。この好きというのは本当、先生方、誇りに思っていたきたいし、教育委員会も誇りに思っていることだと感じました。

○事務局 ありがとうございます。

○委員 ただ、不思議でしょうがないのは小学生が、中学校に行くとうして平均以下になってしまうのか。同じ子供たちが上がっていくんですけど、この年度だけというのじゃなくて、ずっと経年的に見ても、そうなるというのが不思議でしょうがないんですけど。何か心当たりってございますか。

○教育長 休憩します。

(休憩 午後6時22分)

(再開 午後6時55分)

○教育長 委員から、規律ということの大切さと、学校全部で取りかかっているといけないということを言われたように思います。事務局からは、小学校では学校の体制をちゃんと作りながらやっているんだけど、中学校ではそれができない、そこを改善していくようにしないといけないなということと、もう1つは、教育委員会から学校に出向いて指導する際に、やり方がまずいという場合は、きちっと指導していくようにということを指導していく。その内容として、例えば課題提示ができていない、振り返りができていない、やり方がちょっと古いというようなことについては、新しいやり方、又はきちっとした子供の学力がつくようなやり方をしていってくださいということを指導している。

○委員 つくづく思うのが学校の先生方の教育の仕方、中学生の仕方で、先生自体が何か目標を持って、教えるに当たってどういう像を描いて、この子たちにどうした形、どういう学力のつけ方をしてというプランニングというか、そういう像が描けていないと思うんですよ。私学だったら、中学校に入って、中高一貫のカリキュラムがあって、どんどんどんどん進んでいく。それが学力本位になってしまうところもありますけど、成績を結果として得られたものの目標が出てきたりするけど、公立の中学校の中で、先生が子供に対して、3年間の間に、どういうふうな形でこの子らの学力を上げて、どういうふうな形をつくってあげたらいいんだろうというイメージを持って授業をされているのかなと、そういう気が伝わってきません。授業の内容に関して、研究して、こういう授業をやるんだというモチ

バージョンを維持できている先生以外は、その日その日の授業をこなすための惰性の授業になり、そうすると、上からの一方通行的な授業内容となり、今このデータで出ているように、学校に行くのは楽しいけど、授業が全然面白くなく勉強は好きじゃないとなって、学力も上がらないとなります。興味をそそるような表現をしてくれた魅力ある授業をやってくれているのかどうか、そこがすごく大事で、それを先生に求めるのか、学校全体として求めるか。また、子供自体も何を求めているのだろう。そこを解決するためには、どうすればいいのか、好きなことをやらせて、伸ばせる子は伸ばしていこうという形にしていけないと。そうするためには、先生方のより一層のバージョンアップをしてもらわないといけませんね。

○教育長 やり方を変えている者も、今までどおりのスタイルでやられている者もいます。それを、先生がおっしゃるような形で、学校全部で変えていけるようなシステムとして取り入れていけないといけないのかなと、お二人の話を聞いていてそう思いました。やり方としては、課長が言った、探究をさせるような形で進めていけないといけないということかな。チョーク・アンド・トークではもういけないのかな。ワークショップ・アンド・ICTぐらいな感じでしていけないといけないのかなと聞いていました。

○委員 校長はリーダーシップを取って教育方針を出したら、何年間は1つの方針で行けるような形の、最低3年、できれば5年ぐらいのスパンで考えた教育で、ある程度責任を取ってもらう形の学校経営、学校運営をしてもらわないといけないんじゃないかなと、そうでないと結果が出ないと思います。

時間が必要なのは学力だけの問題ではなく、人格形成とか、カラーとか、指導方針、学校運営方針にも特色を出せばいいと思います。確立した方針で5年間やってみましょうというぐらいの腰を据えた方針があつていいと思います。

○教育長 私も8年在職しそう思います。人事方針は、できるだけ校長の在任期間を延ばすような形も考えてはいきます。と、そのビジョンを、学校運営協議会か何かでつくっていきながら継承していくというのも1つの方法かなと思って聞いていました。

○委員 数字でこうやって、学力調査の数字を見ると、上回っているところもあれば、下回っているところもあつて、それぞれなんですけど、国語とか数学はずっと今までの形でしているんですけど、私が気になるのは、英語とICTの分野の教育で、ここは、やるかやらないかで差がどんどん広がっていくと思うんです。特に英語の新しいところの話すことでリスニングも含めてです。あと、ICT教育。そういう機器を使ったり、プログラミングとか、そういうところを進んでやっているところとやらないところは、差が広がっていくと思うんです。先ほど言われたように、英会話を小さいときから習っている子供はすぐに話せるようになるのと同じで、家庭がそういう環境を子供に整えてあげていて、金銭面とか、そういう環

境が整っている子はそれなりの能力が身についていくんだけど、そういうことを全部各家庭に委ねることはできないので、これから始まっていくもの、差がついていくであろう分野は、学校とか行政とかが、全国とももちろん上回ったらいけど、差が空かないように対策は考えていく必要があると思います。まだ今始まったところだから、あんまり差がないですけど、これから地域とか学校とかの環境の違いによって出てくると思いますので、その辺がちょっと気になりますね。

○教育長 ありがとうございます。ICTのことですけれども、意外と教師がICTを使って授業をやるようになり、子供たちのタブレット活用も進んでいます。学校教育の担当主事がいろいろ工夫して、学校の方に説明に行き活用普及をしたり、ICT支援員が、先生に、授業補助とか、教材研究というか授業準備をこんなふうに使いなさいと指導しています。ただ、もうちょっと個人で使うよりも、集団で使うようなことが望まれるかなと思っています。

ちょっと休憩します。

(休憩 午後7時08分)

(再開 午後7時18分)

○教育長 よろしいですか。それでは、報告事項2を了承てよろしいですか。

(「はい」と呼ぶ者あり)

○教育長 報告事項2は了承します。

議 事 その他 1 10月行事予定について

○事務局 運動会、教育支援委員会、高齢者大学作品展等の予定がございます。

26日の木曜日についてですが、定例教育委員会と第5回教育支援委員会が、重なってしまいましたので、定例教育委員会を教育支援委員会の後に開催したいと考えておりますが、いかがでしょうか。時間は5時からでよろしいでしょうか御相談したいと思います。

○教育長 あと50人ぐらいの残っていると言っていましたね。

○委員 あと50人。だから、1日20人ペースで行くつもりだったんだけど。

○教育長 5時は難しいでしょ。

○委員 25人だから、ちょっときついね。

○教育長 5時で終わるように、12日で頑張ってください、5時で。

○事務局 分かりました。ありがとうございます。では、定例教育委員会は夕方5時から開催ということで、よろしく願いいたします。

○教育長 ありがとうございます。

予定表はよろしいか。

令和5年9月28日 午後7時22分 教育長会議の閉会を宣告
